

平成25年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成24年8月14日

上場会社名 アキナジスタ株式会社  
コード番号 2495

上場取引所 札

URL <http://www.akinasista.co.jp>

代表者 (役職名)代表取締役社長  
問合せ先責任者 (役職名)取締役経営管理部長  
四半期報告書提出予定日 平成24年8月14日  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名)桐生 直裕  
(氏名)大崎 隆 (TEL)03(3263)4666  
配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第1四半期の業績(平成24年4月1日～平成24年6月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第1四半期	140	△28.8	△18	—	△22	—	△22	—
24年3月期第1四半期	197	△24.8	△10	—	△9	—	△9	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第1四半期	△986.09	—
24年3月期第1四半期	△1,072.32	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第1四半期	216	109	49.9
24年3月期	127	20	15.5

(参考) 自己資本 25年3月期第1四半期 107百万円 24年3月期 19百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
25年3月期	—	—	—	—	—
25年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	355	△1.9	△19	—	△23	—	△23	—	△996.88
通期	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

(注) 2. 平成25年3月期の通期業績予想につきましては、現在未定となっております。詳細につきましては、添付資料2ページ「次期の見通し」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 有

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

25年3月期1Q	27,261株	24年3月期	19,508株
----------	---------	--------	---------

② 期末自己株式数

25年3月期1Q	0株	24年3月期	10,369株
----------	----	--------	---------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

25年3月期1Q	23,072株	24年3月期1Q	9,139株
----------	---------	----------	--------

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の通期業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	2
(3) 業績予想に関する定性的情報	2
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	5
4. 四半期財務諸表	6
(1) 四半期貸借対照表	6
(2) 四半期損益計算書	8
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) セグメント情報等	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する定性的情報

当第1四半期におけるわが国経済は、東日本大震災後の復興需要の本格化等により緩やかに回復しつつありますが、欧州債務危機に起因する世界景気の減速、円高、電力不足等による景気の下振れリスクには引き続き注視していく必要があります。

当社が事業を営むモバイルインターネット業界においては、スマートフォンやタブレット端末の普及からくるデバイスの多様化や、電子書籍・ソーシャルゲーム等を中心としたコンテンツサービスの充実化が加速しており、広告分野においてもスマートフォン広告の需要が更に高まる一方で、競争は激化し、成長分野への注力と競争力強化が求められております。

こうした事業環境のもと、当社は事業の選択と集中、更に高成長分野への注力を進め、収益改善を行うべく邁進いたしました。その結果、スマートフォン広告の拡大による改善はあったものの、アフィリエイト広告と広告代理事業の減少が大きく、売上高は140,930千円（前年同期比28.8%減）と減収になりました。また利益面では、前記売上減少の影響と株式交付費の発生により、営業損失は18,758千円（前年同期比8,416千円損失増）、経常損失は22,678千円（前年同期比12,951千円損失増）、四半期純損失は22,751千円（前年同期比12,951千円損失増）となりました。

## (2) 財政状態に関する定性的情報

## 財政状態の分析

当第1四半期会計期間末における資産、負債及び純資産の状態は以下のとおりです。

## ①資産

当第1四半期会計期間末における流動資産は191,677千円（前事業年度末は102,643千円）となり89,033千円増加しました。これは主として新株予約権の行使及び第三者割当増資による現金及び預金の増加によるものであります。固定資産は24,394千円（前事業年度末は25,146千円）となり、751千円減少しました。これはソフトウェアの取得による増加と減価償却による減少によるものであります。この結果、資産合計は216,072千円（前事業年度末は127,789千円）となり、88,282千円増加しました。

## ②負債

当第1四半期会計期間末における流動負債は88,312千円（前事業年度末は87,812千円）となり、499千円増加しました。これは主として買掛金の増加と消費税の支払による未払消費税の減少によるものであります。固定負債は18,200千円（前事業年度末は19,745千円）となり1,545千円減少しました。これは長期借入金の減少によるものであります。この結果、負債合計は106,512千円（前事業年度末107,557千円）となり、1,045千円減少しました。

## ③純資産

当第1四半期会計期間末における純資産は、主として資本金及び資本準備金の増加により109,559千円（前事業年度末は20,231千円）となり、89,327千円増加しました。

## (3) 業績予想に関する定性的情報

当社が主力事業を営むモバイルインターネット業界では、従来のフィーチャーフォンからスマートフォンへの携帯電話端末の急速な移行が進んでおります。これを背景に、当社ではフィーチャーフォン関連サービスの売上が横ばいとなっておりますが、その一方で自社の展開するスマートフォン対応アドネットワーク『MAIST(マイスト)for Smartphone』及びスマートフォン向け電子書籍アプリCMS『Apps(アプス)』の販売数は堅調に推移しており、併せてAppsによって作成した電子書籍アプリ「eyebook(アイブック)」の収益化も見込める状況であります。

以上により、平成24年5月17日に公表いたしました「平成24年3月期決算短信[日本基準](非連結)」において未定としておりました平成25年3月期業績予想のうち、第2四半期(累計)の業績予想を売上高355百万円、営業損失19百万円、経常損失23百万円、当期純損失23百万円と見込んでおります。なお、本年4月9日開示の「第三者割当による新株式発行及び第9回新株予約権の発行、並びに親会社及び主要株主である筆頭株主の異動に関するお知らせ」に記載の、FC2, inc. との間における事業面での連携の可能性は未定となっており、平成25年3月期第2四半期(累計)の業績に及ぼす影響はあり

ません。

当社を取り巻く環境は今後も大きく変動する可能性があり、現在通期業績予想数値を算出する事が困難となっております。そこで通期業績予想につきましては、未定とさせて頂いておりますが、今後業績予想の算定が可能となった時点において、速やかに開示いたします。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社は法人税法の改正に伴い、当第1四半期会計期間より平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。なお、当第1四半期会計期間においては該当する資産の取得が無いため、損益に与える影響はありません。

### 3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

当社は前事業年度において、競合過多による広告代理事業の大幅な売上減少等による多額の営業損失を計上し、この結果第7期より連続して営業損失を計上しております。

また、当第1四半期累計期間においても引き続き営業損失18,758千円を計上しております。

当該状況により、現在継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。そこで当社は下記対策を講じることにより、当該状況を解消又は改善してまいります。

#### 1. スマートフォンビジネスの拡大

当社が主力事業を営むモバイルインターネット業界では、従来のフィーチャーフォンからスマートフォンへの携帯電話端末の急速な移行に伴い、ソーシャルゲーム及び電子書籍サービス等、スマートフォン関連サービスの拡大が顕著であり、広告分野においてもスマートフォン広告の需要が更に高まっております。

そこで、当該事業環境の変化に対応すべく、アドネットワーク事業として前々事業年度より展開しているスマートフォン対応の広告ネットワーク『MAIST (マイスト) for Smartphone』へのさらなるシステム開発及び積極的な営業活動を行っており、今後も当該事業を主とする事業規模の拡大を図ってまいります。

また、アドネットワーク事業以外においても、今後益々の拡大が予想される電子書籍市場に本格的に参入することを目的として、スマートフォン向け電子書籍アプリCMS『Apps (アップス)』の販売及びAppsによって作成した電子書籍アプリ「eyebook (アイブック)」の運営に力を入れ、アドネットワーク事業を始めとした当社事業全体とのシナジーの創出に努めてまいります。

以上のようなスマートフォン関連分野への積極的な事業展開により、事業規模の拡大と収益基盤の強化に努めてまいります。

#### 2. 財務基盤の安定化

平成24年4月に第7回新株予約権の行使による47,600千円の資金調達を、同じく平成24年4月に第三者割当による新株及び第9回新株予約権の発行によって計64,818千円の資金調達を実施しております。なお、第9回新株予約権の行使期間は平成24年4月25日から平成29年4月24日までであり、全てが行使された場合、さらに最大63,350千円の資金調達が可能となります。

上記の対策を着実に推進することにより、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況を解消・改善できるよう努めてまいります。

4. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成24年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	41,987	126,081
売掛金	55,411	59,026
貯蔵品	82	71
前払費用	7,622	9,586
未収入金	1	163
その他	89	255
貸倒引当金	△2,551	△3,508
流動資産合計	102,643	191,677
固定資産		
有形固定資産		
工具、器具及び備品	37,360	37,360
減価償却累計額	△32,827	△33,435
工具、器具及び備品(純額)	4,533	3,925
有形固定資産合計	4,533	3,925
無形固定資産		
ソフトウェア	15,437	15,294
電話加入権	81	81
無形固定資産合計	15,518	15,375
投資その他の資産		
敷金	4,336	4,336
破産更生債権等	10,523	10,249
その他	757	757
貸倒引当金	△10,523	△10,249
投資その他の資産合計	5,094	5,094
固定資産合計	25,146	24,394
資産合計	127,789	216,072



(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成24年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	54,299	56,804
1年内返済予定の長期借入金	5,680	5,980
未払金	—	29
未払費用	13,560	13,587
未払法人税等	290	333
未払消費税等	2,324	490
前受金	8,020	7,468
預り金	2,904	3,194
賞与引当金	733	424
流動負債合計	87,812	88,312
固定負債		
長期借入金	19,745	18,200
固定負債合計	19,745	18,200
負債合計	107,557	106,512
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	100,000	155,575
新株式申込証拠金	340	—
資本剰余金		
資本準備金	—	55,575
その他資本剰余金	372,662	285,443
資本剰余金合計	372,662	341,018
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	△365,941	△388,692
利益剰余金合計	△365,941	△388,692
自己株式	△87,219	—
株主資本合計	19,841	107,901
新株予約権	390	1,657
純資産合計	20,231	109,559
負債純資産合計	127,789	216,072

(2) 四半期損益計算書  
第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
売上高	197,930	140,930
売上原価	164,250	115,551
売上総利益	33,680	25,379
販売費及び一般管理費	44,022	44,137
営業損失(△)	△10,342	△18,758
営業外収益		
貸倒引当金戻入額	686	—
その他	—	0
営業外収益合計	686	0
営業外費用		
支払利息	71	130
株式交付費	—	3,789
営業外費用合計	71	3,920
経常損失(△)	△9,727	△22,678
税引前四半期純損失(△)	△9,727	△22,678
法人税、住民税及び事業税	72	72
四半期純損失(△)	△9,799	△22,751

(3) 継続企業の前提に関する注記

当社は前事業年度において、競合過多による広告代理事業の大幅な売上減少等による多額の営業損失を計上し、この結果第7期より連続して営業損失を計上しております。

また、当第1四半期累計期間においても引き続き営業損失18,758千円を計上しております。

当該状況により、現在継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。そこで当社は下記対策を講じることにより、当該状況を解消又は改善してまいります。

1. スマートフォンビジネスの拡大

当社が主力事業を営むモバイルインターネット業界では、従来のフィーチャーフォンからスマートフォンへの携帯電話端末の急速な移行に伴い、ソーシャルゲーム及び電子書籍サービス等、スマートフォン関連サービスの拡大が顕著であり、広告分野においてもスマートフォン広告の需要が更に高まっております。

そこで、当該事業環境の変化に対応すべく、アドネットワーク事業として前々事業年度より展開しているスマートフォン対応の広告ネットワーク『MAIST (マイスト) for Smartphone』へのさらなるシステム開発及び積極的な営業活動を行っており、今後も当該事業を主とする事業規模の拡大を図ってまいります。

また、アドネットワーク事業以外においても、今後益々の拡大が予想される電子書籍市場に本格的に参入することを目的として、スマートフォン向け電子書籍アプリCMS『Apps (アップス)』の販売及びAppsによって作成した電子書籍アプリ「eyebook (アイブック)」の運営に力を入れ、アドネットワーク事業を始めとした当社事業全体とのシナジーの創出に努めてまいります。

以上のようなスマートフォン関連分野への積極的な事業展開により、事業規模の拡大と収益基盤の強化に努めてまいります。

2. 財務基盤の安定化

平成24年4月に第7回新株予約権の行使による47,600千円の資金調達を、同じく平成24年4月に第三者割当による新株及び第9回新株予約権の発行によって計64,818千円の資金調達を実施しております。なお、第9回新株予約権の行使期間は平成24年4月25日から平成29年4月24日までであり、全てが行使された場合、さらに最大63,350千円の資金調達が可能となります。

しかし、これらの対応策は一部実施途上にあり、現時点では継続企業に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期財務諸表は、継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期財務諸表に反映しておりません。

## (4) セグメント情報等

## I 前第1四半期累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)	四半期 損益計算書 計上額
	アドネットワ ーク事業	広告代理 事業	自社メディア 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	127,495	70,019	416	197,930	—	197,930
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	127,495	70,019	416	197,930	—	197,930
セグメント利益又は損失 (△)	9,332	1,661	△4,390	6,603	△16,945	△10,342

(注) セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用(主に報告セグメントに帰属しない一般管理費)であります。

## II 当第1四半期累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額
	アドネットワ ーク事業	広告代理 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	90,594	50,335	140,930	—	140,930
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	90,594	50,335	140,930	—	140,930
セグメント利益又は損失 (△)	3,376	△3,413	△37	△18,721	△18,758

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用(主に報告セグメントに帰属しない一般管理費)であります。

2. SAP事業の撤退により、当第1四半期累計期間から報告セグメントの自社メディア事業を廃止しております。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

平成24年4月25日にFC2 Investment, LLCから第三者割当増資の払込がされたこと及び平成24年4月2日から19日までの間にマイルストーン・キャピタル・マネジメント株式会社によって第7回新株予約権が行使されたことにより、当第1四半期会計期間末において資本金が55,575千円、資本準備金が55,575千円増加しております。

さらに平成24年5月31日に保有する全ての自己株式を消却したことにより、当第1四半期会計期間末において自己株式が87,219千円減少し、同額その他資本剰余金が減少しております。

これらの結果、当第1四半期会計期間末において資本金が155,575千円、資本剰余金が341,018千円となっております。